# TOHOKU STORIES

東北　ストーリーズ

6
2024

## 特集：青森県 津軽びいどろ

## 津軽びいどろとは

春の桜、夏の祭り、秋の紅葉、冬の雪景色。日本の豊かな四季彩色をガラスに入れてお届けしたい。そんな想いから多彩な色合いで表現するハンドメイドガラスブランドです。

独自で調合する色彩豊かな100を超える色ガラスと色ガラス粒(シモ)に8つの技法を駆使し四季を感じるストーリーを表現します。また、職人は青森県の伝統工芸士を筆頭に、若手や女性の職人が活躍し作り手のパーソナル要素も魅力の1つです。

## 津軽びいどろの歴史

「津軽びいどろ」を作成する前の北洋硝子は漁業用のガラス製の浮玉（うきだま）製造を行っておりました。
北洋硝子の吹き上げる浮玉は他に比べ丈夫である、という確かな品質の評価を得て、1973年には国内トップの生産高となりました。
その後、浮玉がプラスチック製に切り替わったことをきっかけに長年培った成形技術を食器や花瓶に応用したことで津軽びいどろに繋がっていきます。

日本の豊かな四季の情景を、ガラスに映しこむ色彩の豊かさ。津軽びいどろ最大の魅力は、扱う色の多さにあります。
ガラスの色は成分の配合によって変化しますが、これまで津軽びいどろは100を超える色のレシピを独自で開発してきました。

ガラスの色はとても繊細で、1kgに対してたった0.1g、僅かな配合の違いが発色や完成度を左右します。また、金型を使わずガラスを吹くのか・それとも金型を使用するのか…などによって色のニュアンスが異なってしまうこともあります。そのため、成型技法や表現したいデザインによって、同じように見える色であっても“実は配合が異なる色”というレシピもたくさん開発してきました。独自でこんなに多彩な色を生み出せる工房は、世界でも類を見ないかもしれません。

## 【 溶融 】

ひと匙の配合が変える、色とカタチの美しさ熟練した感覚でガラスの色を調合する技術ガラスの主原料であるケイ素にさまざまな原料を配合して、自在に「色」を創り出す技術。

温度によっても色や性質が変わるため、1年を通じてガラスを溶かす炉の管理も担う。すべての作品の土台となるため、職人やデザイナーと連携しながら日々調整を重ねています。

## 津軽びいどろ NEBUTA

ねぶた祭りの鮮やかさを映しとった色ガラスが光と響き合う。
彩り豊かな「ねぶた」やフィナーレの花火など、夜に映える色鮮やかさが印象的な東北三大祭りの1つ、「ねぶた祭」。その色彩を８色のガラスで表現した人気シリーズです。色ガラスで浮かび上がる模様は、ねぶた祭の楽しさや華やかさを表現しています。
和紙で作られる「ねぶた」のように、どこか和のぬくもりを感じられるのは、手しごとならではの“ゆらぎ”があるから。
和紙と津軽びいどろ、素材は違ってもその“ゆらぎ”は光を美しく印象的なものにしてくれます。

## 津軽びいどろ、日本酒ものがたり

酒造メーカーが多い青森県、370年を超える青森県最古の酒造「竹浪酒造店」と津軽びいどろを作る北洋硝子は地元商品を守る為に事業者間連携をしている。

銘柄「岩木正宗」「七郎兵衛」は17代目の店主が引き継ぎ今も販売している。津軽びいどろでは多くの盃や片口を販売しておりコラボレーションしている。

### 青森の祭りをイメージした酒器

東北三大祭りのひとつであるねぶた祭をイメージし鮮やかさを映しとった色ガラスと光が響き合うシリーズねぶたシリーズは、ねぶたの彩り豊かな色彩とフィナーレの花火の夜に映える色鮮やかさを8色の色ガラスで表現した商品です。青空にも、ほの明るい宵の色にも見える青のグラデーションで祭りの日の華やかさを思わせる金彩をあしらいました。爽やかさを感じる青色の他に祭りに溶け込む多彩な色彩をお楽しみいただけます。

**【この人に聞きました】**

**六カ所原燃警株式会社 警備部 橋本悟さん**

質問）現在どのようなお仕事をされてますか？
答え）日本原燃(株)で、人と車両の入構を確認する業務、また自衛救急車の搬送業務を兼務しています。

質問）いつから六カ所村にいますか。
答え）生まれ育ちは青森県六ヶ所村です。

質問）青森県や六カ所村の魅力を教えてください。
答え）自然豊かで海産物から農作物まだ美味しいものが沢山有ります、長芋、にんにく、ホタテ、マグロまだまだ有ります。

質問）おすすめスポットはありますか。
答え）青森市のねぶたの家　ワラッセはねぶたを間近で見ることができます。ぜひお越しください。

大間のまぐろ丼

ほたて貝の網焼き

ねぶた祭り

**【編集後記】**

編集長の田子です。Tohoku Storiesは東北地方と新潟県の事業者や生産者の今をお伝えしていきます。また、その土地の穴場情報や組合員様の近況などをお伝えする情報誌です。
今回は、青森県で津軽びいどろを製造している北洋硝子様を特集させて頂きました。

青森青森県の伝統工芸「津軽びいどろ」は若い方から年配の方まで広く人気のある硝子製品です。

「津軽びいどろ」の成り立ちは漁業が盛んな青森県で魚を捕るための網を浮かせる浮球を製造していましたが、時代の流れで硝子からプラスチック製に切り替わったことから、長年の浮玉製造で培った「宙吹き」の技法を用いて大ぶりな花器などを生産するようになりました。
成形技術と色ガラスを掛け合わせた工芸品として、1977年に食器や花器などで構成された『津軽びいどろ』が誕生しました。

職人たちは技術開発にも力を注ぎ、美しい色ガラスの調合や、高い技術を要する技法もほぼ独学で習得するなど、常に新しい技へのたゆまない努力を続け、現在では青森県伝統工芸品の指定を受けるに至りました。
今回の取材で驚いたのは、職人さんが若いという事です。地元の人もいれば、遠方から津軽びいどろの職人になりたくてきた人もいるようです。伝統工芸の世界では職人が少なくなり商品を作れない事も多くあり、深刻な問題となっています。しかし津軽びいどろの魅力と職人を育てる会社の姿勢が、伝統を絶やさない事につながっていると思いました。

**工場長 中川 洋之さん**
津軽びいどろで扱う製品すべての色づくり･溶融を一手に担う、北洋硝子の工場長。その高い技術が評価され、2012年には「あおもりマイスター」に認定される。ガラス職人として30年以上を歩み、ガラスの色づくりに関して豊富な経験や実績をもつ。現在は後進の育成にも尽力しています。

**北洋硝子様からのメッセージ**
私達職人が丹精込めて作った「津軽びいどろ」で美味しいお酒を飲んでください。

TOHOKU STORIES
東北電力生活協同組合様向けの月刊誌です。東北地方と新潟県の生産者や穴場情報をお伝えいたします。
毎月月末日に創刊
いわきユナイト株式会社 福島県いわき市泉町1丁目８－１４　/　発行人：田子哲也

【お問い合わせ】
東北電力生活協同組合
〒980-0822 仙台市青葉区立町20-1　TEL/022-268-7150　担当：常務理事 荻原 崇弘

◇津軽びいどろ
青森県の伝統的な硝子工芸品で、四季の色を感じるハンドメイドガラスです。この美しいガラスは、津軽の職人たちが巧みな技術と技法で手づくりしたもので、日本独特の四季の色彩を表現しています1。津軽びいどろは、盃、おちょこ、グラス、タンブラーなどのアイテムを販売しており、日本の豊かな四季を彩る美しい作品を楽しむことができます。青森の風景や想いが込められた津軽びいどろは、テーブルウェアやライフスタイルに豊かな彩りと季節感をもたらします。

## 6/28（金）～7/31（水） 津軽びいどろ 全品10% OFF

記載の商品以外に取り揃えておりますのでサイトをご観覧ください。
受注生産になるためご準備できしだい順次発送させて頂きます。

---

「津軽びいどろ」のご購入は、東北電力生協オンラインショップ「東北産品市場」でご購入できます。

東北産品市場
東北電力生協

東北地方・新潟県の食品・お酒・雑貨がオンラインショップよりご購入できます。
生協指定店：いわきユナイト(株)
https://www.tohoku-seikyo.jp/mypage/